

大内
興立
十杉傳
第二輯

卷二

於
202
2

15
202
2





貞隆 十杉傳卷之七

第十三回 老媽毒計佐小雲

六
202
2

蟻あまぎ卿けい手てとと拳こぶしてて毒どく蛇へびとと招まねけけ蜘蛛くまじら細ことと張ひてて飛と鳥とりとと襲おそふふ賊ぞく旅りよ人びとととののくく鳥とりと
 喚こゝろぶぶハハ見み等らのの言ことにに據よりりののううああハハ阿あ千ち賀が母ははのの刀やいば自よりハハ小こ畑はたけ村むらにに住すまますす。
 女むすめ兒ごとと連つてて走はりり。此こゝ處ところにに少すこのの知ち音ねああはは馬うま入い川がはるる片かた傍はた八はち幡ばんとといいふふ所ところへ
 来きりり。腰こしにに計はかりりりのの家いえ居いとと借か住す居いりり。今いまハハ名な悪わる生ま巧たくま小こ共ともとといいふふ人ひともも
 乃すなはちちハハ所ところ得えももななく。近ちかきき涉せりのの人ひとにに恃たままとと垢あかははれれ探たんまましし物ものとと洗あらひひまま農いん作さく
 不ふ雇こひひととてて。其その日ひとと送おくるるののううたた家いえににああるる日ひのの稀まれるる日ひハハ勢いきほああハハ女むすめ兒ごのの
 阿あ千ち賀が母ははとと三さん小こああのの目めどどもも其その麗うつくししハハ。此こゝ處ところ等ら涉せり入いままとと比ひぶぶをを老おももはは。
 既すでにに先ま頃ごころ旅りよ人びとがが淫よこしま戯あそむむととせせりり。古ふるききハハああるる不ふ彼かもも年としハハ似にげげららくく。なならら



生心の着しとるるに少女の姿をわんふい。夜老のらに暖るさ。浅間
一きま仕わくる。救年丹誠辛苦して育あびる甲斐もたなく。吾老樂
の夢とらるる。如何せまうと必ひ。忽地心ばたさることあり。まろせん
ふいと独点頂頻て阿千賀か黒髪の大さるものと惜氣なく。佛心と欲て
中刺といとも大きく刺廣げ。漢子の貌も打拵せて。名と千賀本と喚捨り腹引
もうせ半天とせ。家の廻りの掃除より。朝も夕もの焚火の音もて。吾千賀
松小任す。是も漸く心易。ゆるる人がつらとて。酸い美少年とら
おの女とあひのあら。狂言倚語とる老等。初老と超る。皺ひた伸。鹿
るる處女に打拵。るる人處女のどくふあふも。まろその恰好模様とて。人の
眼と感しとる。見馬と女子とあひる。なる貌も作て。雄子のどくふ

あつと親の心でまええ。差ある。おや他人におておやと独り心も熱く。阿千
賀ハ老と憂ひ。世小雄子とて女子とく。女児と小雄子の名と負して。
育はる者もあひと。吾推ま。今までハ女子の貌であつるものと。
浮世といふもの。人の耳目と非変て。かる容ハ何ぞ。嗟ん。さ
哀なる。おと母ハ性急め。いと頑るもの。るは心に恃さ。詩刻く。
うち敲きて。此骨支利ぬ。ちりの折檻さる。心と豫て。多ののら。
そとが随意。年ひ。且暮に形る。いふ吾此の因縁悪く。実
の親ハ騒動ふ。おん往方さ定る。生死の程も覚束る。一個の兄も謀
共不難とバ通さる。のう。何方に在ま。夫さ。吾ハ端多。此老女不
佐ら。思とて。母とハ鳴と。浅る。栄枯得喪盛衰ハ世の理と

りひるる。僅よもも廿に五ご所しよ領りやうとのち。世よにに武ぶ士しとと称なららまましし。女むすめ見みとと生なまかかく
 果は報はうハハああれれどどかかるる魚うま類るいのの老お女んなととりりてて母ははとと冊ふきき子ことと喚こゑとと今いまハハ鬼おにも
 ああまま年とし團だんるるががららるる此こゝららるる果はるるんんををととああべべババ戦たたかひひのの場ば場ばをを走はしりり
 せせととたた馬うまのの蹄ひづりにに死ししし。ささはは活い生なまてて苦くるしみとと重おもめめるる。遠とほくく増ますすたたれ
 ののとと心こゝろ一ひとつつふふおおたたううねねてて歎なげくく袂たもとのの花はなのの露つゆ風かぜふふ散ちるるんん風かぜ情なさけももかかるる
 所ところへへ拳こぶし動うごくくとと兄あに長なが五ご郎らう先まふふとと。程ほど々々谷やま驛やきるる悪わる兒こゝろ坐ま九く郎らう。そのその餘あま
 其その処ところ等らうのの破やぶ落お戸と。山やま駕が籠かご岨しづとと屏かざり居ゐてて中なかよりより引ひかかせせ一ひと人びとのの女むすめ見みるる
 才さい嬪ひんくく太たい禮らいふふ枯くららああげげららとと眼まなこををささええ。泣なみだ腫はれしし。色いろ青あおささぬぬ。齒はとと食くををああてて
 烏くわ玉ぎよのの丈だけ多おほくく黒くろ髪かみ予よ乱みだるる物ものままいいににたたとと伏ふささ。若わもも阿あ千ち賀がのの千ち
 賀がおおいいるる。りり胸むねととままありり。ささ只ただ管くだふふ膽い潰つぶままてて眉まゆとと頓とんめめのの視みて

居おままババ長なが五ご郎らうハハ撞つとと坐ましし。ららなな千ち賀が松しょう。母はは刀やいば自よりハハ何なん地ぢへへ往ゆままののゆゆ
 やや些ち時ときととたたままありりてて夜よるハハ家いえもも在あららなないいとと本もとりりにに其その方かたののまま留とど守り
 してして居ゐてて六む便べんととああわわくく。ととののババ千ち賀が松しょう点ち頭づつてて母ははハハ背せよりより隠かくれれ在あららなないい
 そそとと喚こゑんんんん仔こ細こるる。ささららととままるる。女むすめハハ推おしそそ。おおんん此こゝ等らうままもも母はは人ひとのの
 悪わるききととままいいりり勧すすめめののゆゆ。羨うらやまささももああららババ喚こゑててハハ来きとと回くわい答こたへへ。長なが五ご郎らうハハ
 才さいにに咄はな々々とと賢けん者しやとと其その方かたののゆゆ。ここののままででははるるんん。頓とん々々喚こゑとと焦あせ燥ばをを詮せん
 方かたななくくももままいいりり。程ほど々々此こゝ家いえのの刀やいば自より木き履ぞうりのの音ねとと音ね々々ののゆゆ。
 夜よる中なかにに何なんももあありりてて。人ひとのの心こゝろとと騒さわががととぞぞ文ぶん中なかのの月つきもも更さら更さらとと更さら更さらとと言いははるる
 脊せ戸とののままりり入い来きまますす。ババ坐ま九く郎らう其その処ところへへままいいりり。刀やいば自より久ひさくく逢あひひままららせせぬぬ
 何なんももままいいりり。健けん不ふ暮ぼ。いいままをを何なんもも。僂たう僂たう。今いま宵よる此こゝ家いえとと鞍くら馬うまををせせしし。

あは此に酒と振まらん。息子と案内ゆて来り。年端もあはれ老
と置いてのりまで隣で何とぞのへ黄金投るる吾々も些件ひくゆ
とて言ふのらして老女うち笑も家小居ても千貫おめ。よく
洗き自のそして。こて居るさ腹がらて隣へあまそ老婆どもを其身
に古昔の物語年がよめてハ花香もるる人に探く汚いと嫌ひそ
のそ孫子とおめて。淫奔癖もなぬぬ又筆の窟の聖のぞく。木竹の段
くら生まてかろる息して居ても弱盛ハミるをこくく小筑癖を編三ッ四ッ五ッ
七ッハッ被らぬ老ハあぬぞ。今も夫等の物語で皺をさるる腹の
皮剥さへ顛倒させて来ると独笑臺小真黒る齒莖おらしく高
笑ひ坐九郎ハ声と頼め。喃刀自てそとてハ送小増る説話あり。

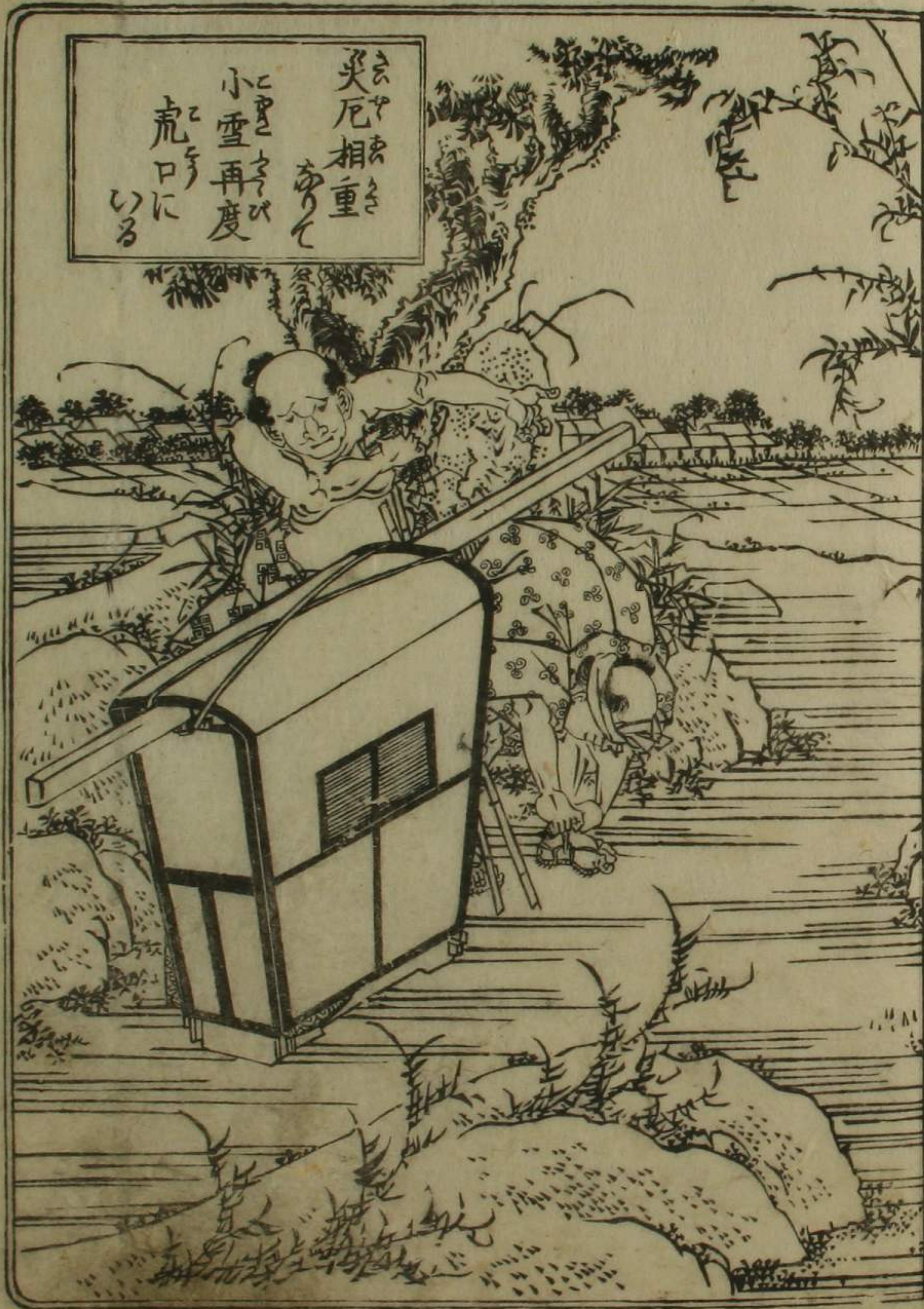
夫也今宵遠く此家へ尋て来て吾々。まぐく此方へと身と把
て往バ脊と柱おめて。弱り思うる風情にて俯た居る女と見老女も
要時ハ訝りく。傍へもよとて在ると長五郎ハ母がと把此方の隅
めて蜜々と低語ばらちよ。些盛とバ過ととど色の白さハ七難隠
真助通。凡真良吾小任せ。詮方あり。嗟れ夏とてとろと寛尔
とて坐九郎少。迹より其処へ立塞がて。翌速に何とて。昇めて往く
黄金おせん。まぶ夫までハ家刀自。預りあくと低語バ。老女ハはるまこ
寛尔と。坐九郎主。おん此等ハ年中も弱くて思慮浅く。おまを黄金を
おん夏ハ世のりて難き夏る。性急にてハ益少る。吾千賀松と
養ふあ。その赴とよく察ね。さると和主等速に黄金をひきして

律レ方ハ何カ者ナリのハ知ラねども。吾レ縁故ありて預ルるハ黄金ハと云フ
 些カなるモ。秘シおたシまシバ夫トの時の入目と賄イ和主達も知ラあらく。
 今ハ世間駭カじくて。何地へゆくとも頭にハ思ハく。そのう野伏等徘徊
 して。強盗引裂ハ山野ニ充満さり。そと浮々して連ぬるハ忽地奪シて
 その上に。纏盤までも把らるべく。夫トり老婆に欺えらますハ吾レ時節
 と考へて。若シたレ價にる時ハ。その得和主ハ分際えんといふもここで此方も
 沈吟しり。通シ野伏等に奪ハ把シバ注シるハ事あり。あらば
 刀自十兩の黄金と吾レに欺えるもバ彼女とバおん此がまり。任ま
 甘んのと回答と云フて些十兩にハ過とと云フて長五郎さ加をりる。僅か
 の夏といふとも探る。いざく望に任せんと頭て胴巻らち震ハ白く

浪寺にて盗スるハ黄金のらちと十兩といはバ坐九郎と云フと稟納める
 長五郎帰るもん骨折後に在はまぬ。嗟さりるもろ小雪めと添掛
 甘ぬが遺恨るも。亦時節こそあらめといひて。悪見しりといふも出てゆ。老女ハ
 ハ其知へまりて。小雪と扶起しり。作シ声して傳の。體と解まて
 此方へまり。湯をりと飲わさるもろ。嗟怖しり老女ぞとおのひめりん
 あらハあま吾レもろ六十に近づまて。余命もろたま盛ある。おん此等
 正とと云フと虚けんや。されと渠等に如此といふも時ハ合点せん心に
 あらぬ夏りて。黄金とあま渠等と帰ますも。おん此が難と扶けんのモ
 斯圖らんのどろし心あらんくも勞且と体め。飢ひるハ飯もあり。
 ちや千賀松と鳴りては吾レ倚ぐ息子に傳るハ。いらおろく年

ありむ。誓く。此処。小住。るうちも。弟と。こゝろ。て。會釈。久。親。の。い。は。は。く。う。
 知。れ。ね。ども。追。付。お。く。り。て。ひ。き。か。ん。ふ。ま。ぐ。く。今。宵。ハ。体。を。他。に。ま。さ。く。
 會。釈。老。女。が。心。意。小。雪。ハ。わ。ら。く。切。う。く。喻。へ。ら。る。仁。老。女。あり。とも。
 些。の。知。音。も。る。た。此。此。と。言。は。ば。貪。し。き。此。中。に。て。いと。大。救。の。黄。金。と。
 以。ま。し。救。ふ。べ。き。あ。ら。う。絶。て。る。く。や。我。に。救。ひ。を。も。帰。り。行。く。家。さ。え。
 る。父。も。何。方。に。在。ま。る。あ。ら。は。さ。る。も。つ。つ。あ。り。ぬ。ん。と。是。ハ。胸。不。暗。
 間。る。た。泪。の。雨。の。堰。り。結。て。一。声。う。く。う。と。泣。き。て。老。女。ハ。お。さ。り。
 寄。さ。の。ま。は。は。そ。今。の。入。道。に。進。き。送。り。て。ひ。き。か。ん。ふ。嗟。ま。り。は。し。
 湯。と。飲。み。と。頻。り。痛。む。心。ハ。あ。ら。わ。れ。ど。彼。坐。九。郎。が。虎。口。と。言。ふ。道。を。
 ふ。ん。は。は。は。も。ま。こ。老。女。が。惠。と。あ。ら。う。う。泪。と。拭。ひ。く。不。憶。難。儀。不。遭。

て。此。此。の。え。い。つ。あ。や。る。ま。ん。と。あ。ひ。と。救。ひ。あ。る。心。の。有。ら。ん。ま。て。履。ひ。
 る。命。の。親。と。も。あ。ひ。は。り。さ。ら。は。女。子。の。浅。き。に。曉。し。の。す。も。あ。ら。う。て。
 俯。き。居。る。ハ。許。し。の。と。勸。解。ら。し。て。老。女。ハ。ち。ち。笑。み。歎。く。も。理。悲。む。
 聊。所。謂。る。た。あ。ら。わ。れ。ど。此。此。へ。渠。を。昇。り。て。来。ぬ。ハ。ま。ご。も。あ。ん。此。
 だ。傲。倅。なり。此。と。損。り。て。親。へ。の。不。孝。此。と。探。し。て。良。人。へ。不。貞。ま。さ。
 かく。と。糸。ら。し。し。を。愛。さ。れ。た。ま。あ。ん。れ。と。信。や。く。小。宥。む。ぞ。小。雪。
 も。少。し。心。あ。ら。わ。れ。彼。方。此。方。の。物。語。ハ。要。時。の。憂。と。忘。れ。り。厨。房。に。
 いて。休。ま。り。か。て。月。救。ハ。怪。し。ま。と。と。是。より。後。ハ。ま。ご。更。も。老。女。を。
 今。宵。ハ。律。々。なり。婢。女。の。ど。お。ひ。遣。ハ。少。し。心。に。悖。り。時。ハ。煙。管。の。血。
 で。畳。と。敲。き。是。小。雪。此。此。へ。来。し。和。女。郎。が。難。と。救。ひ。て。死。ハ。命。の。腕。



尖厄相重
 小雪再度
 虎口に
 いる



十本杉七

と執んで震へ声して礼りふとと。名や忘しう思あうと千賀本ハもど
 手足らで萬直に心着るるは。犬の小屋も岩と此家掃除さ
 さへ。同のらむ垣の。前込井戸端の溝も流且のほく。うふ塵渡ふ
 とふ。あもむ。で障さ。あね。椽類。甲乾と龜の。此振して空ら
 眺め有漏々々と。其処等。此処等。に。る。居る。溜息。なり。も。や。飽と。嗟
 忌々。や。と。程。や。で。此家。に。居る。が。辛苦。か。う。後。とも。言。む。今。出。て。ゆ。け
 辛。い。浮。世。で。大。救。る。十。兩。と。り。入。黄。金。や。て。買。う。と。此。る。れ。ど。代。物。が。要
 ふ。ら。ね。バ。是。非。が。る。元。價。限。る。の。商。ひ。も。時。よ。ら。て。の。せ。や。あ。ぬ。頼
 十。兩。の。黄。金。出。て。並。べ。こ。上。で。出。て。往。お。ま。今。日。で。食。う。と。米。の。残。三。分
 五。厘。も。損。う。て。ハ。五。音。々。母。子。の。咽。が。乾。る。い。ま。く。渡。せ。と。白。眼。つ。け。る。小。雪

ハ心に悔ととの。沸るるど。及ども。さうとて。出。て。入。る。き。黄。金。の。あ。く。ま。こ
 抵。頼。が。罵。り。ま。と。て。果。ハ。括。と。て。責。さ。る。む。四。壁。の。人。に。う。ら。ま。く。ま。入。心
 恥。う。く。あ。ふ。く。も。是。非。な。く。其。処。に。て。と。着。て。勸。解。バ。控。も。着。あ。り。
 心。の。ま。み。く。罵。り。ま。う。頻。て。其。処。を。人。俯。し。て。嗟。さ。る。く。と。年。も。る。死。媽。々
 に。心。を。勞。さ。せ。て。何。樂。に。も。有。ら。ず。た。に。些。望。し。り。の。氣。を。つ。け。し。今。ハ。氣。根
 も。薄。く。る。り。物。の。い。ま。も。太。儀。る。ふ。勢。腹。揉。し。て。少。し。も。早。く。死。ね。と
 の。の。う。和。女。郎。等。ハ。そ。ま。ら。願。ひ。の。知。る。ね。ども。冥。利。ハ。些。づ。く。余。へ。よ。あ。や
 十。賀。松。此。処。へ。來。て。足。と。捻。ま。と。踏。伸。ま。塗。方。る。色。バ。千。賀。松。が。肥。え
 太。ま。る。る。老。女。が。旺。と。揉。む。子。先。も。焼。げ。る。小。雪。ハ。ま。く。と。ら。と。ち。あ。ふ。り。
 其。処。等。く。は。け。椽。類。し。り。こ。か。く。業。と。り。出。ま。心。も。細。と。糸。車。必。ハ

惘々として解ゆき... 小舟の白雪に。そのさるゆる筑紫錦藤の
 備小哉東や操ゆきと小車の。ゆる因果もあまくと。此ふそ答ふる
 久方の。天とて鷹の三越路へ帰るといふと家さるる。るは他の上と御
 とて。袖もあまき孤村の柳王昭君が胡地小嫁。胡角一声霜
 後の夢漢官万里月前の腸と胡国の旅と悲しく。往昔のさるも小
 雪が心に推あてらるる。さるバ辛苦に今日とまだ翌と暮
 して住はらぬ。嬾き宿小日と星。さるたものうらや花の梢ふ来
 るく杜鵑山へ帰る水き月の半とことなる。ふ至一此日近野へ雇
 ハして朝までたより千賀松と小壁ハ彼処へ至る。は老女ハ二個
 留守居し。ちや黄昏ふ近づく。ハ繩の蔭口。桐火桶と此椽先へ

のら出して。垣の青葉と搔はらミ火桶へのまて。片裸ぬき。及古
 くて張一團扇右と左久見ゆ。軒ふ群ぐる蚊と逐ひの外面
 と眺めて居る時。年まのまご可二ハの。處女ハ此処に。ちやとらひ
 彼方此方と。在り。忽地木戸より内と。眠た老女が。白くを。寛尔
 やうに。妾ハ旅の女。る。ちや。薄暮。て。此処に。宿。と。借。多。ん
 や。踏。へ。木小屋の。備。不。臥。とも。そ。ま。と。バ。厭。ひ。付。ら。と。い。言。兼。さ。推。ふ。て。
 何。さ。る。ま。は。兼。倉。の。よ。た。商人の。女。見。ふ。あ。る。る。若。さ。も。く。東。路。の。
 縁。故。あ。る。武。士。の。女。見。ふ。て。その。擾。乱。と。避。ん。と。め。逃。呻。吟。て。来。る。る。
 一。俱。の。一。個。も。連。さ。る。さ。い。ゆ。も。怪。く。去。る。ら。吾。の。弱。官。な。ら。ん
 に。ハ。狐。狸。が。蕩。さん。と。かく。麗。彩。る。容。貌。不。打。扮。惑。ハ。と。も。あ。る

びさるれど。さる盡物ふあらざるべし。何ハ鬼もあま美面下處女會齊
 住めて容子と同往先定つるさる考る情とくわく此処に止おれ
 詮方ありと哀改めておいで見まば艶やうさ。海棠芙蓉に比さる及
 ば。老女のいとも鏡々として。昨夜燈火の太りも是等の夏の象
 みやと終ぶりのさる竟尔と。今更に伴る下僕もさる。何と往ん
 と志ぎ。出あふらぬおれども。益ハ暑さも絶がたふ。さぞ色辛ト
 めひらん見苦しくとも足沃き。此方へあがりて甜ひ受工見ずも兩個ハ
 生憎。近所へおて伝まとも。程る帰るを徒然と慰め侍らん頼
 と自ら處女が草鞋の紋もさる。此方へといと慇懃る會親に
 處女も是と歡びて。斯端さるも驚くせしと兼引のひ嬉さる。

許し更と端居り。扇ひらけて汗と納ま要時はうとと休め
 たり

第十回 三個月前説舊縁

かくて老女ハ曲突焚つり。飯と調へ處女に勧め。俵もおん
 此ハ何と。何とへつ越しあふと。今更に艶さるおん容で。ま
 一個る旅の路山賊引利の類さる多き。是もさるもさる律
 無異。通るあひし愛とさる。えうけに似て心根ハ剛に在る
 の有り。と笑片向て賞讃されば。處女ハはて微笑。宜ふ下り路
 の程。覚え東るなれと詮方なく。僥倖あして今更に。さる校者にも
 出會はる。是より後も遙々の路とあへ心ま支。此より先へ弱る

ぬし心むそびふりゆとて。末遙々と宣ふ。さらば花洛う南都坂う亦
 ハ浪花へ越あへう。嗟覚束るくくと肩うち頼むる老女と云りて。吾侪
 探る人ありて。武藏相模の国々ハ大うう歩行果是よりしてハ東
 海道と花洛へ往んやさもる。ハ駿河の府中ありまで。索ねんくと
 ぬし信りとて。老女ハ心の裡。若も夫くと云ふ。人さる。如何なる
 人ぞ言ふ。いさる。殿内にあるや。も。親ハ同胞と問ハ。處女ハ頭
 と云り。吾侪が索ねるその人ハ。親同胞の類ハ。あると云。元より吾侪ハ此
 日の本に親ハ。族ハ。此るりと云。老女ハ。便ア。と云。人物
 う。膝より寄て。何等の人と云。ねんと呻吟あつ。ねども斯世の
 間の物慮なるに。浮々として歩行ぬ。ま。了る。引。進退の

ど。度と喪いぬ。その時。胸と嘴とも益み。吾侪一個の雄子ありと
 名と千賀松と。い。做せり。近頃此の仔細ありて。一個の女と女見と
 一の。名とバ小雲と言さる。い。此が言。敵と。る。ものに
 伝るれば。要時此家に足と住めて。時の難易と量。わね。吾侪
 も少一の。律あ。世間。穩く。花洛へ往んと。云。其
 時伴ハ。言。信。と。て。ハ。處女ハ。心に。心。後。さ。ば。
 小雲と女見。や。いと。も。猜疑の面持。往。回。んと。わ。い
 一の。要。と。わ。ら。め。と。色。も。信。心。と。て。斯。ま。て。痛。り。の。い
 辱。る。宜。ふ。ど。く。覚。束。る。旅。路。と。独。測。ら。ん。り。刀。自。の。言。兼。に
 随。が。ん。と。歡。づ。び。る。回。答。も。老。女。も。俱。ふ。歡。び。て。待。と。る。い。ふ



美男美婦
 安と名を
 赴たて
 異小を

時もなや。二更の頃ふたごに至いたり。忽たちまち地表ちのへに人ありて。母人ははよ今いま帰かへり。いみ声こゑなきる。紙燭しやくして。老女らうにょハまじりて。応おこたへ早はやうりし。ぞ。兩個ふたごも小婦こめかけに。いや。罐かま子ごに温湯ぬるまじゆ沸わかてある。盥うげんして沐浴ゆあませよ。と。いふ。変かへる言ことば葉はの艶あざしき。千賀ちか松まつ小雪こゆき誘よびひ。盥うげんと。いふ。湯あぶと。汲くみて。星ほしぞ。見みゆ。く。青あお天井てんじやう吹風ふきかぜさ。え。涼すずしく。て。盥うげんの。果はさの。汗あせ拭ぬぐふ。沐浴ゆあまも。果はて。裡うらへ。の。母ははハ。處女ぢよと。指ささ。して。如此しかと。る。ま。じ。り。住すめ。り。暫しばしばく。此家このやに。居おら。る。積つひ翌あしたより。汝なんぢ連つら同胞どうぼうとも。を。な。り。て。慰なぐさめ。言ことばせ。よ。と。い。ふ。を。な。り。て。千賀ちか松まつ進しんで。い。で。う。く。と。を。在あり。て。去さる。ま。じ。り。此處このところ等ら。涉せつハ。片ぺん鄙へいにて。物もの女ぢよ自よ在ある。ま。じ。り。ま。じ。り。何なに食く食く應おべ。さ。か。ら。も。る。ま。じ。り。と。ま。の。家やに。住すめ。り。道案みちあん一ひとく。彼處このところ此處このところ鄙へい涉せつの。氣き色いろとも。い。ふ。を。な。り。と。ま。じ。り。と。ま。じ。り。態たい懃しんふ。い。や。バ。處女ぢよも。

會あ釈やの。火影ひかげは。居する。小聖せうせいと。い。て。是こゝる。ん。お。ん。此こゝの。姉あね也なり。在ある。と。刀や自よの。祝いわ話わで。笑わらつ。れ。バ。近頃ちかごろと。い。ふ。泰たいら。と。い。ふ。と。あ。ま。じ。り。の。姉あね也なり。と。儲たくらの。美うらし。き。と。微こ笑わらふ。バ。小聖せうせいも。其處こゝへ。い。で。來きり。會あ釈やと。い。ふ。右視みぎみ左視ひだりみいと。訝あやう。し。き。面おもて持もて。要時あやう。ち。物もの語ごら。ひ。つ。と。ま。更あや過かて。三更さんせいの。頃ころみ。く。る。ま。じ。り。バ。刀や自よと。い。ふ。と。ま。じ。り。あ。の。く。圍房ゐぶへ。い。り。に。ま。か。く。て。其その夜よも。明あら。れ。バ。處女ぢよハ。早はや天あま起あり。刀や自よも。向むかひ。て。る。ま。じ。り。宣のたまふ。と。い。ふ。要時あやう。ち。が。ら。ど。此家このやへ。住すめ。り。と。い。ふ。と。特とくと。い。ふ。と。ま。じ。り。バ。刀や自よハ。ち。か。ま。じ。り。此方このところより。と。い。ふ。と。昨夜きのうも。い。ふ。と。章あやで。う。言ことばせ。よ。と。い。ふ。と。苦くるし。く。と。い。ふ。と。何なにまで。い。ふ。と。底意こゝろハ。ち。か。ま。じ。り。信まことや。に。回かへる。ま。じ。り。と。い。ふ。と。ま。じ。り。さ。も。あ。ら。ば。と。い。ふ。と。暫しばしばく。此處こゝに。住すま。り。ぬ。夫おとこより。と。い。ふ。と。ハ。家いへ刀や自よも。暴あやに。三さん個ごの。見みと。持もつ。心こゝろ地ぢも。る。り。

て此と怠り。千賀松小雪ハ日々の下。此処や彼処へ逐りて糸繰を
機織小麦春。まこの田の草と刈とらせ責はるひつ朝夕と営む扶と
るまどののうら。彼處女とバ終日子己カ傍へ喚おきて。他夏るた容
に會釈は夕風涼しき折くろハ。河原の涼と入江の螢神や佛の
物詰要時も傍と離さねバ。處女も老女が心とわろねと渠が性
とバ粗曉。怒るる時ハ忽地に。おらまぬ戯る言ゆして心を慰め
氣と晴さ。罵らるるを稀るまバ千賀松ハいと教びて。處女が此
へ來ませし。時より。母ハ心の和らぎて打懲さす。夏もる。是を
物怪の儼伴と。小雪と二個低言居たり。かして日救と過を程ふ
るや文月の半旬とるり。亡魂まゐる魂祭り。鄙も都もとるるべし。

小町踊やハ踊。あひくの衣裳とて。藩ふ小唄の賑ひ。天とまじらる
月影も闇とるるまで。老若が集會て小路とおく歩行。此処るる老女
もかけ踊。おんととて。おろが小夜ふけて二更の頃まで帰る。まの千賀
松小雪も賑あがる。踊るとおろく。あども。益より明き月の夜に。
着るる衣の垢染る。耻輝やうと。面るると。おバ縁。端居して。
さぬぐ。戯るま居るり。が益の労まよ。千賀松ハ此縁先へ吹くぜの。
涼しきまに。蚊さ入。おまぶ。足踏伸して眠る。是とる。より處
女ハまじら。小雪が袖とそと引おぞ。小雪ハ。おむた。今宵のま。おん
血とおいて。家刀自。出て行ま。こそ。おろ。る。ま。お。二更。あ。る。り
おらんと早く帰る。ま。在せ。お。と。お。く。と。處女ハ。ま。り。り。命。ま。る

おとく吾儕とバ。東の間に備と離さむ。丁た折くるとあつ時ハおん
 此が備よ千賀松ありて。律と明との暇とひむ。今宵こそ幸ひる。是
 此方へ在せと備る。障子の落ふ此と嘸めて。處女が語そ出る
 やう。そもく吾ハ女子はあらむ。おん此ハ元志とあつと。同きて小雪
 ハ不審あつ。宣ふハ伴作主。先頃よりして面影ハ二つ割で此のま。
 疑ひあらとどあども。その打扮の異さるる。若子ゆてハあらざるべし
 雄子にるまバ。一衣をりも。差ぬぬのどとあひ居たり。まこ如何るれバ
 處女ハ打扮。此処等徘徊。あつや。覚束る。と回くまバ。處女を
 寛ふとらち笑きて。疑ひあハ理る。先頃おん此等父子の難と
 頃ハ救ひて刑罪の場と騒がせしに不圖。是も一個の英雄なる。杉坂

藏人と鳴る。做を人おん此等父子と俱々。傳めらむ。多門と救ふ。その
 赴ま。如此とる。夫より三個その場とさり。信濃坂なる樹林ふりりて
 普く息と休む。所其処ハ集會。三個の若吾ハ杉倉勇ハ杉坂
 今一個ハ杉谷多門元より来歴る。ま。苗字ハ杉の字とのど
 する。是夜初の縁る。と彼処ハおて義と信比。休その所と別。が。
 吾ハ知縣の歩卒と痛め。乱妨る。るの。に。定めて往方と探ま。に。
 世と忍ぶ。此ハ容と換ん。とあつと。あひて。總角る。と。僥倖。よ。て。處女ハ
 打扮。おん此等父子何地へ隠し。一回。密。孫。あつんと。あひ。其。此。處。暫く
 呻吟。ても。後。て。在。家。と。知。る。う。く。いと。覚。束。る。く。あ。ども。詮。方。る。れ。ば。
 這。回。ハ。花。落。へ。亦。も。ゆ。ん。と。あ。ひ。是。る。道。よ。さ。か。つ。不。圖。此。家。ハ。宿。借。り。

主の刀自が信やうぞり。こも吾打扮處女よあるは情とくけて住んと
 是る心憎しと男折くら。小雪といふ女とめて近頃女見よしりといふ
 同名異人るる初ねど是も一つの事懸とあふりのう言ふ随ひ此家に
 住めおたぬれと情ひ間もるおん此等が帰ると言ふは正しき小雪此家
 小潜とあらんとハ。おひがけおたぬるが其無異るるに心おつ居ぬさるふ
 よめて吾もまこと。ゆつく此家に住まんと老女よは故る、誘ふさて其
 沢とおん此は語り茂平が往方と笑まうとど朝るたる不働とたるさる
 序悪くそ日と過ぬ舟屋ハ何方に居ぬかぞまことおん此はゆふして此家
 の老女と母といはるせし。頻々語り笑へねと際さる寄るは嬉しとさふ
 まこと悲しさとあれた交て小雪ハおんをたらくと落る泪と拭ひや、在ら

まくと具ふ語る。まことと茂平が追駈本で悪見どもふ打まへ夏ハ氣
 後る一う中にして。小雪ハさらには是とあつむ伴作契是とせり。吾も
 尔こそおんは是是るる老女と吾と愛して。頗る好意の挙動まことお
 毒悪る夏吾ハ知れり。まこと此家とあつとも。此と寄んとする家も
 るなはバ辛苦るりともこの術る。暫くおん此ハ此処に居るね吾ハ
 夏と告るくハ。外に要るは此家よあるはバ近きよあつとをば。一回
 花洛へ至るん。あつハあれども舟屋が往方の。知れざるを遺恨るれと。
 さつ俯て居るあり。千賀松合破と起あはは。兩個ハ了得らるも驚きと
 備えまへてと揚て。兩個と制しさる驚きまこと。おん物語と笑らるに
 ひと不測るる夏まはは漫り起あつ驚きまこと。許しと坐せしめて。



依ハ兒此ハ處女ニあらむ雄子ニ在セシ。夫に引久妻ハまこ雄子の
 容貌ニ打扮ドその実ハ女子ニ侍リ。名トバ阿千賀と喚做サシテ是る
 刀自の拾ひ子也。今も此ハ宣ハシ杉坂藏人ト人ハ年齢我歳
 ぐらゐめて。その恰好ハゆるる人ぞ。吾儕一人の兄ありて七歳の時別
 什まで名トバ杉坂藏人と喚ハ正しく學久あり笑ハとゆふも。
 伴作自とち守ッ。その人遠般その恰好ある宣ハ面ガ。此ハ
 似る所あり。年ハ廿歳と笑ハるの。いと倉卒の回みて。その来歴を
 委しく問答ド病願ありて国々ト遍歴するといひゆき。一々家兄ハ
 ありぬべし。吾國らども義と結ベバ。此ハともま。同胞と謂ハべき因
 縁あり。是も怪しき對面ると。又バ阿千賀ハ眉うち嘸め。まこの

外ハも怪しき夏あり。杉谷多門と命する人も遠般との夏ありて妾ガ
 心と歡びぬ。世ハゆさらバ渾家ハせんと折言とて去リ。ガ。まこの
 その後災難ニ遭ぬ。痛ハとと涙うちぬ。バ小雲ハ久り己ガ
 家居ニ住め。始め自ら罪ハ伏せ。終るといふも。詳ハ解ハ。まこ
 妾ガ与へる。黄金よりて勸解あり。且吾母子の名トゆと。自ら
 罪ニ値ぬ。世ハ薄命する人ありとも。杉谷主ガ。まこハまれる。り。
 夫より後ハ難もなく。花洛へ至。まこの。や。覚東あり。と信心の底。ら
 明と三個の閑談伴作ハ膝立ると。吾測らむ。此処へ來て義と
 結び。杉坂ガ妹といひ。杉谷ガ。渾家ふるんと折言ハ。此ハ限り
 あり。神らぬ。此のあるべき。殊ハ思ある。茂平ガ女兒小雲

白徒の馬鹿律儀めて舞き白と焼く真鍮どり。空気にあつた真
 似たる心。得のはくべき此の幸あると語る。バ兎角。羨望を心にこそ直にま
 ちど。心のみふくむ。侍よ。ある。阿千。賀め。とも。活て。黄金。よ。ま。ん。物。と。し。と
 腹黒くも。計波。て。白。と。和。ら。び。笑。と。含。み。お。ん。此。が。言。業。理。る。ら。遭。え。お。バ。に。せ。り
 他人。多。き。は。も。過。本。一。因。縁。あ。て。要。時。る。ら。も。此。家。に。住。め。互。よ。心。と。ら。明。て
 海。の。畢。竟。海。より。も。深。き。縁。と。学。ぶ。る。に。途。覚。東。る。花。洛。ま。て。一。個
 せ。ら。ん。ひ。と。便。る。葉。月。の。始。め。と。思。ふ。も。牛。ひ。ひ。と。佛。へ。指。は。る。聲。言。さ。も
 あ。の。の。と。吾。儂。も。俱。く。花。洛。へ。あ。む。む。兩。個。の。の。の。も。仕。ひ。て。嬾。さ。旅。の。病。に
 と。慰。さ。め。る。ん。と。信。じ。ら。り。バ。伴。作。心。よ。此。老。女。よ。吾。と。處。女。と。思。ふ。ら。ら
 詐。変。と。ま。る。心。ぞ。可。笑。あ。ら。ひ。出。る。も。僥。倖。る。ま。と。ら。ち。微。笑。て。答。る。ハ

斯まで吾儂が此の程と。思ひあつる辱ま。さ。産。の。親。より。思。深。く。左。程。よ
 思。さ。す。法。共。く。花。洛。へ。伴。ひ。あ。れ。一。個。の。旅。の。嬾。さ。の。同。い。慰。む。者。も。な。く。
 心。細。さ。も。弥。増。さ。し。斯。ら。ち。解。く。人。々。と。俱。く。往。ん。ハ。此。よ。り。て。ま。こ。ら。り。身
 の。僥。倖。な。ら。ん。と。頻。々。と。言。ふ。と。あ。ぞ。老。女。ハ。千。賀。松。小。雪。と。喚。び。如。此。と。く
 る。ま。バ。逆。ま。ら。ち。ら。小。花。洛。へ。往。ん。と。思。ふ。ら。り。お。ん。身。等。と。も。伴。る。へ。な。れ。バ。
 旅。の。准。儀。を。せ。し。ら。う。と。曉。し。て。頻。て。逆。さ。旅。よ。此。直。告。め。家。財。を。こ。ま
 と。包。く。小。丘。付。て。旅。行。莊。と。を。ま。り。り。り。れ



十杉傳卷之七 終

